

群 教 セ	G15 - 01
	令3.274集
	高-キャリア

令和3年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ヤマト

長期社会体験研修員 金子 智栄子

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社ヤマト（以下、ヤマト）は、昭和21年に設立された。本社を前橋市におき、支店や営業所、附属施設やグループ企業などから成り立っている。建築・土木、空調・衛生、冷凍・冷蔵、上下水道・水処理・温浴に関する多様な施工実績をもつ企業である。

企業理念では、「業界最高のものづくりの力を高め、地域社会の発展に貢献する」「変化に対応し、技術とものづくりの力で創造と革新に挑戦する」と掲げている。現在は「建設プロダクトのヤマト」として建設を製品として捉え、基本計画から資産管理までの製品・サービスの提供をワンストップで行っている。「人と地球を笑顔にしていこう」とを仕事のテーマとしており、環境にやさしい建築や設備などを提供し、ものづくりの力で地域社会の発展に貢献している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 人事部での研修【4月、3月】（研修場所：本社）

人事部人事課では、大学生や高校生の採用業務に携わった。大学生向けの企業説明会の運営補助や、会社訪問の際の面談への立ち会い、入社試験の補助業務を行った。高校生の採用業務では、実践協力校（以下、協力校）への求人訪問や、夏休み中に実施された職場見学会の実施に携わった。

(2) 教育センターでの研修【5月】（研修場所：教育センター）

入社後に1年、または2年の研修期間を設けており、新入社員は「研修生」として教育センターでの研修を受ける。ビジネスマナーなどの導入教育から、安全衛生教育や3次元CADの講義を研修生と共に受け、建設現場での実習に参加した。

(3) 建設現場での研修【8月～10月】（研修場所：邑楽郡明和町の建設現場）

教育センターでの新入社員研修の一環として、研修生は4か月間の現場実習を行っている。邑楽郡明和町の建設現場での研修に研修生と共に1か月半参加し、施工管理の業務の補助や、現場での5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動などに取り組んだ。

(4) その他の研修【5月～7月、10月～2月】（研修場所：朝倉工場、本社、その他）

加工センターでは、品質向上や現場施工の省力化を目的とした配管路のユニット化やプレキャスト化などに取り組んでおり、ステンレス鋼管のベンダー加工や仕上げ工程における作業を行った。その他、総務部や環境事業部、大和環境技術研究所、企画推進部、生産設計部、大和ビジネスサービス㈱での研修を行い、それぞれの業務について学んだ。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

「将来を切り開く社会人になるために」をテーマとし、社会で必要な資質・能力を身に付ける手掛かりとなるようキャリア教育資料を作成した。「キャリアオーナーシップ」に着目し、社会に出てからも学び続けるための手段を提示した。変化が複雑で激しく、将来の予測が困難な社会では、自分自身を振り返ることや、状況に応じたスキルのアップデートを行うこと、また、意思決定のために有効であるとされるOODAループについて紹介した。学びの場である学校生活で身に付けてほしい資質・能力と、社会で求められる資質・能力と対比させ、掲載した。

(2) 実践の概要（県立前橋工業高等学校）

授業実践

題材名 「未来を拓くキャリアプラン」（特別活動）

対 象 建築科第2学年 40名

授業前アンケートにより、就きたい職業はあるものの、多くの生徒が進路選択やその先の将来の準備に取り組めていないといった実態を把握した。そこで、キャリアプランニング能力育成のための題材を設定した。希望している職種の事前学習や、社会人に必要な資質・能力についてのグループワーク、社会人基礎力チェックで自分の強みを把握することから、理想とする社会人のイメージをもたせる展開とした。その社会人像に近付くために学校生活における行動計画を立て意思決定をさせ、主体的な進路選択やキャリア形成につなげられるよう、授業を実践した。

Ⅱ 研修成果

1 新規採用に関わる業務について

人事部人事課では、大学生向けの企業説明会から採用内定までの一連の採用業務に携わり、そのプロセスや企業が求めている人材像について学んだ。長期的な視野をもち、計画的に採用活動をしている企業の取組を知ることができた。また、協力校への求人依頼や職場見学会での業務では、生徒を企業に送る学校側の責任の重さを改めて感じた。その重要性を職員間で共有し、組織的な生徒指導や進路指導に生かしていきたい。

2 新入社員研修について

大卒者は1年、高卒者は2年の研修期間を設けており、新しい時代に対応できる技術者の育成を目指している。実務に携わる社員の講義を受け、企業のきめ細かな教育の内容を知ることができた。また現場実習では、目まぐるしく動く現場の様子や、その都度発生する課題に対応しながら、ものを造り上げる現場従事者の責任感を学んだ。研修生の実習では、技術的な指導を受け多くのことを吸収しようとする姿や、積極的にコミュニケーションをとり人間関係を作り上げていく姿を見ることができた。主体性やコミュニケーション能力は、社会に必要な資質・能力の基本であると感じた。

3 キャリア教育実践について

グループワークやキャリアプランの作成を通して、生徒は社会で必要とされる資質・能力への理解を深めることができた。また、「働くこと」を自分のこととして捉え、学校生活において将来の目標に向けた行動計画を立て意思決定をすることができた。実践を終えて2週間後に実施したアンケートでは、92.3%の生徒が意思決定した内容を実行していると回答しており、普段の学校生活自体が将来の準備であることを理解した姿が見られた。今後は振り返りの機会を設けて評価と見直しを行い、主体的な進路選択につなげられるよう指導・支援を継続したい。

Ⅲ まとめ

本研修では様々な職種の業務に携わり、社会人に必要な資質・能力や、社会で求められている人材について学ぶよい機会となった。挑戦や改善を試みながら働く社員との関わりでは、企業としても社員としても学び続け発展していくことの必要性を感じた。「学び」を継続できる生徒を育成するために、学校での学習と社会とのつながりを考える力や、学んだことを活用する力、振り返りから将来へつなげる力を身に付ける指導・支援を行っていききたい。また工業科の教員として、ものづくりの力で地域社会に貢献する企業の取組や、技術革新が進む建設業の魅力を生徒に伝え続けられるよう、自己研鑽を重ね、教育現場に貢献していきたい。

（担当指導主事 贅田 秀樹）